



○朝風に蜂一匹や花レモン
プルプルのゼリーは紫陽花白い皿
風渡る春田の一画鷺三羽

農子

富江

退院の試歩に駆け寄り額の花
ガラス越し蜂が我が家を又のぞく
句会へとお出掛けリュック母の日に

美貴

○雨の色そへて四葩のけふの色
蜜蜂と侮りをれば刺されけり
巣作りの下見か軒の雀蜂

弘

○蜜楼桃井かおりの生欠伸
紫陽花や言葉の傷がまた疼く
飽食や女王蜂は産み続け



○口に虫ヤマガラもぐる一位の木
濃あじさい婆のひと言爺の黙
蜂蜜を紅茶に落すバルコニー

丞子

○今週は日替り弁当七変化
会食もおしゃべりも止む雀蜂
和紙の鯉仁淀の川底百万匹

郁子

○蜂の巣を見上げる誰も口曲げて
紫陽花や昨日ことより今日のこと
こいのぼり譲れぬ一線太く描け

万貴

○紫陽花や濡れつつ青を深くする
○蜜蜂の羽音のかすかに聖五月
一炊の夢かも知れず夏椿

志津子

○鉄線の切っ先にある矜持かな
その先は誰も知らない蜂の巣や
四葩咲く人の笑顔を受けながら

富子

○退院を見送るナース濃紫陽花
○蜂飛ばやランチタイムの揚げ物屋
○新茶飲む奥の細道めぐりつつ

千代

文子

○山路きて通草の花薄明かり
小型雀蜂の巢鍼灸院の花器に挿す
島若葉風やわらかく舟廊下

味元 昭次 作品
蜂の巣や人はことばで人を刺す
蜂の巣を叩いて眠る独裁者
宿怨を晴らす紫陽花の鞠撫でて

★次回市民句会

【開催日時】

令和四年六月二十二日(水)

午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

どなたでも自由にご参加いただけます

